

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/25】

女子準決勝

山口水球クラブ 15

7	—	1
2	—	2
4	—	1
2	—	1

5 春野水球クラブ

PSO

審判： 橋本 寛一
中 哲朗

山口水球クラブ	18	SH数	17	春野水球クラブ
	8	速攻数	1	
	12	ST・SB	11	
	11	SH・P誘発アシスト	5	
	50%	GK阻止率	6%	
	6	EX反則数	4	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

少ない人数ながらチームのまとまりで初戦を勝ち上がった高知が、この世代の最強部類に属する山口にどう挑んでいくかが注目される準決勝。

1P

実力で勝る山口はスタート直後からゴール前に攻め込むも、センターへのパスを高知がよく防いでターンオーバー。しかしながら、高知GKからのパスをインターセプトして三田が泳ぎ込んで退水を誘発し、春原がしっかり決めて山口が先制。その後は、個人の体格、泳力、さらにはボール処理力で山口が圧倒し、次々に高知ゴール前へ攻め込み、一気に7得点。対する高知はローリー妹が6mシュートで一矢を報いるのが精一杯の防戦一方状態となった(山口7-1高知)。

2P

高知のローリー妹がセンターボールを取ってスタートした第2ピリオド、ローリー妹がそのまま中央突破して2点目を挙げると、山口の再開後の攻撃をローリー妹がボールを奪ってから前線に出し、竹村が6mシュートを決めて連続得点。その後、山口は第1ピリオドほどの攻めをしてこなかったこともあって、両チームのラリーの応酬となったが、中盤からはまた山口の攻撃がテンポアップして連続得点。山口9-3高知という展開で前半を折り返した。

3P

余裕の出た山口はややペースを落としての攻防となったが、それでも好機とみるや速攻で加点。その後は、ゴール前までの攻撃からミドルレンジからのシュートを多用して得点を重ねた。高知は相変わらずの防戦だったが、ここでもローリー妹がゴール前にドライブ攻撃を仕掛けて1点を返し、第3ピリオド終了時点で山口13-4と安全圏で第4ピリオドへ

4P

センターボールを取った高知だったが、山口の佐野にボールを奪われてから自陣に攻め込まれてペナルティ。それを山口・亀井が決めて10点差。高知はここでもローリー妹が奮起して1点を返したものの、最後にもダメ押し点を山口が取って、山口15-5で勝利し、明日の決勝は京都との対戦となった。敗れた高知は小学生選手を含めて、体格差などに臆することなく懸命にプレーし、交代選手もいない中でフルタイムにわたってプレーを継続できたことは自信となっただろう。この後の3位決定戦の神奈川戦でもお姉さん選手たちを相手に果敢にプレーしてほしい。

【プレー分析から】

山口はシュート力のある選手が前半だけの出場になったことから、双方にそれほどの差は出なかったが、山口は確実なシュートを心がけたことで無駄打ちがなく、シュート決定率が非常に高い結果となった。また、序盤の攻撃で見せた速攻は見事であり、反面、体格・泳力に劣る高知の速攻は繰り出せない試合展開であった。

特に第1ピリオドの山口攻撃では、速いパスからの有効シュートが次々に決まり、体格差などを考えると、そうしたパスで相手のディフェンスを突破する作戦が功を奏した形となった。

力の差があるということで、山口はあえて高知の中心選手のローリー妹へのマークを厳しくしたわけではなかったことから、高知側はチャンスにはローリー妹にボールを集めることができ、5点中4点をローリー妹がマークした。